

地域社会の絆づくり

～「おっちゃん家」は寄るマイホーム（擬似家族）への一里塚～

【趣旨】

少子高齢化が進み、高齢者（夫婦・単独）世帯が増加し、一方で若い世代が核家族。コミュニティづくりをめざすための知恵を話し合う。

「おっちゃん家」「寄らんかいね」の取組状況を報告し、課題と解決方法を話し合う。

【ゲスト】

定永 嘉代子

NPO法人在宅福祉サービスさわやかさかい理事長／宅幼老所ひまわり

「困ったときはお互いさま」の精神で活動の場を広げ、会員制、会費制で運営する「助け合いの団体」を設立。高齢者、障害を持った人たちが尊厳と生きがいを持って暮らしていけるような暮らしのお手伝い、また、子どもたちの健やかな成長のお手伝い等の活動を行っている。

佐藤 敬子

NPO法人かたくりの会理事長

地域社会で安心して暮らしていくために、高齢者、障害者、困難を抱えた家族に対して、お互い助け合うというボランティア精神のもとに民間非営利の福祉事業を行い、その事業を通し地域福祉のコミュニティづくりの活動を行っている。

【コーディネーター】

中野 啓子 NPO法人さわやかいいね金沢理事長

「困ったときはお互いさま」。これが活動の理念であり、助け合い事業のほか介護保険事業所としての活動を行っている。子ども、障害者、高齢者の区分ない福祉サービスを提供している。

協力団体 ● チーム絆、市民活動支援センター

会場 ● おっちゃん家

参加者 ● 23名

1. 分科会要約

- ・当初の目標及び先進地事例等
- ・富山さん（おっちゃっ家オーナー）の熱い思い
- ・現在までの経緯（活動報告）
- ・水平展開（寄らんかいね：松山さん）
- ・現状の問題点および課題
- ・意見交換



2. 開催で得たもの（新しい発見）

どこの地域も高齢者比率は深刻化し、民間のグループが、拠点となる個人宅を開放し、主に高齢者の方が日中の共助生活を送れるようにすることでのコミュニティ構築と共に生活費の軽減を図る高齢者支援の事例を知ることができた。



3. 分科会まとめ

高齢化社会に向けて、この地域の高齢者がどのようにすれば安心して暮らしていけるのか。

将来的にグループホームのような共同生活によるコミュニティの形成や生活費分担可能な活動を目指し、現在、試験的に集会形式で高齢者支援活動を行っている。

平成22年7月から9月に声かけによる利用者募集をかけ10時～15時の間4回リハーサル開催を行った後

現在、毎週日曜日に定期開催に移行しボランティアスタッフと共にゲームや健康維持体操、娯楽やスタッフによる料理、イベント等を行い、利用者に喜んだり楽しんだりしてもらえる活動を実施している。

実際の利用者からも、この活動があって本当に良かったとの声や活動の様子が写真掲示してあり楽しんでいる様子が伺えます。

ただ、新しい取り組みだからこそ以下のような問題や課題もあるようで、以後これらを解決する為のなにかは、他の地域にも大変参考となることになる事例になると感じました。

- ・男の高齢者の方は出てきにくい。
- ・お互いの意識の中に、してやっている。（スタッフ側）、来てやっている（利用者側）との思いがある
- ・昼食後しばらくして帰るので、滞在時間が短い。10時から15時なのに、13時頃には申し合わせたように帰ってしまう。（夕食の提供も良いのでは）

- ・利用者の方が自ら楽しめる、自分達がしたいことをできるようにしてもらうためには、どうすればよいか・・・
- ・食事の準備も遠慮せず手伝って、できる人に、できることをしてもらうには・・・
- ・元気なお年寄りによる、自助・共助のコミュニティを目指す
- ・お年寄りのコミュニティとして、寂しさを解消し元気に暮らせる環境づくり
- ・全町会に展開していく為には・・・など

4. 今後に向けた展開

現在の抱える問題や課題に取り組みより良い活動にする。

